

〈はじめに〉

『文化と生物学』編集部一同

ズカンフ〜ザッシ『文化と生物学』Vol.00を創刊してから約7ヶ月。ようやくVol.01をお披露目することができました。お待ちしておりますありがとうございます。本号からKindle Unlimitedでの配信がスタートします。

今回の特集テーマは「化粧」と「怪獣」です。“生物学者に「怪獣」を解説してもらうのではなく、「怪獣」になってみてほしい!”という編集部メンバー・切江の突飛な発言をきっかけに、生物学者である近藤滋さんと特殊メイクアーティストのAmazing JIROさんとのコラボレーションが実現しました。

また「化粧」の歴史や生物学的な視点を知るために資生堂の高野ルリ子さんに話を伺ったり、「怪獣」の由来と魅力について、特撮研究者でありアニメ特撮アーカイブ機構の理事である氷川竜介さんに解説いただいたりしました。鍵となる「怪獣」たちの写真は、円谷プロダクションと須賀川特撮アーカイブセンターにご提供いただきました。

本来の自分と別の自分を橋渡しする「化粧」。その拡張概念ともいえるVRやアバターについてVR研究者・鳴海拓志さんに解説いただきました。また、武田薬品 京都薬用植物園の協力のもと「化粧」に使われた植物をレポートします。「怪獣」といえばゴジラが思い浮かびますが、最近話題の「ゴージャ怪獣」をご存知でしょうか。生みの親であるアーティスト・岡田悠介さんの個展に、生物のかたちを研究している研究者の野下浩司さんが訪れ「ゴージャ怪獣」のテクスチャを分析してくれました。なんと『文化と生物学』オリジナル版の「ゴージャ怪獣」も数量限定で販売します。(近日公開)。

連載では、プラクティショナーコレクティブ・コ本やによるブックガイドやファッション研究者の藤嶋陽子さんと農学博士・イラストレーターの木下千尋さんによる寄稿、編集部メンバー・切江による変化アサガオの話と飯沢によるコンビニで展開される“みらい食”の話が並びます。また今号より、Vol.00でイグ・ノーベル賞について解説してくれたサイエンスコミュニケーターでありDJとしても活動する古澤輝由さんによる『文化と生物学』なプレイリスト連載がスタート。“怪獣メイク”をテーマにSpotifyで選曲してくれました。ジャケットのデザインは編集部メンバー・細谷のお手製です。

本号にご協力いただいたみなさま、仁田坂英二さん、伊藤重和さん、石黒和昭さん、山中慎太郎さん、ハギー K さん、山本悠さん、竹田大純さん、アドバイザーである岩崎秀雄さん、伊勢武史さん、そして榊山寛さんに感謝いたします。

「化粧」について考えると化粧をしている自分とそうでない自分の2つにわかれ、“自己とは何か”、“ヒトとはなにか”という問いにいきつきます。また、「怪獣」は現実にはありえない空想の生き物ですが、“ありえる”と“ありえない”の境目はとても曖昧です。「化粧」も「怪獣」も、自己と現実がゆるやかに分断されることのない、そのあいまいさに魅力を感じるのでしょうか。

あなたの中にも「化粧」と「怪獣」のようなあいまいな自己がひそんでいるかもしれません。ズカンフ〜ザッシ『文化と生物学』を読みながら、目から耳から楽しんでいただけたら幸いです。